

キ ャ ッ チ フ レ ー ス

時 を こ え 、 大 地 が く れ た 最 高 の 一 滴

3	、	4	0	年	前	、	こ	の	地	に	降	り	積	も	る	雪	は	地	下
深	く	に	し	み	こ	み	、	長	い	年	月	を	か	け	浄	化	さ	れ	、
今	湧	き	水	と	な	っ	て	こ	の	地	を	ふ	た	た	び	め	ぐ	り	私
た	ち	の	生	活	を	さ	さ	え	て	く	れ	て	い	る	。	小	諸	に	は
軟	水	と	硬	水	の	2	つ	の	水	が	な	が	れ	私	た	ち	を	育	て
て	く	れ	て	い	る	。	最	高	の	一	滴	に	す	る	に	は	私	た	ち
の	こ	れ	か	ら	の	行	動	が	大	き	く	か	か	わ	っ	て	く	る	。

2年3組 Kさん

講師コメント (ソトコト編集長 指出一正氏)

注目してもらいたいところは、小諸の水そのものを端的に分かりやすくちゃんと伝えきっていることです。端的に分かりやすく伝えるということは、広報、PRでは肝心要な書き方なんですね。まず、スタンダードなところでの文章の美しさが良いと思いました。そして、もう一つは最後、なげかけで終わっているんですね。

①これは地域に関わる、ふるさとに関わるということを、どういう風にしていったら良いか、特に高校生の皆さんが未来を考えるときに、これからどうにでも色んなことが起こりうる、なっていけるんだみたいなことを、ちゃんと美しく未来に向かう補助線を引いた文章でまとめているところが良いなと思います。

文章は長く書いたあとに小さく縮めることで質量と凝縮される内容が含まれます。そこに書かれていないことまで想像させるには何万字も書いて400字に縮めるということが圧倒的に生きてきます。そういう意味で、Kさんが書いた文章は、ここに至るまでのプロセスも含めて良いと思いました。

キ ャ ッ チ フ レ ー ズ

誰 も 知 ら な い 本 当 の 水

君	は	知	っ	て	い	る	か	、	本	当	の	水	を	、	小	諸	の	浅	
間	山	の	大	地	が	生	ん	だ	小	諸	に	し	か	な	い	水	を	、	他
の	水	と	は	全	然	違	う	甘	さ	の	あ	る	水	だ	。	ぜ	ひ	一	度
試	し	て	み	て	ほ	し	い	。	今	ま	で	の	水	の	概	念	を	壊	し
て	く	れ	る	は	ず	だ	。												

2年3組 Kさん

講師コメント (ソトコト編集長 指出一正氏)

とても重量のある文章の書き方をしています。重い文章が書ける人は、才能なんですね。短い中にも大変に力と太さみたいなものがある。

①最後に水の概念を壊してくれる、という言葉の選び方もとてもきれいだと思います。水の概念でなんでしょうね。みんなからしてみたら色々な考え方があると思うけど。

君は知っているか。のところから、いざないながらとても力強いフレーズの運び方をしたというのが、とても良い文章だなと思いました。

① 2 種類の水が飲める理由とは？

小	諸	市	は	、	な	ぜ	2	種	類	の	水	が	飲	め	る	の	か	？	私
は	、	初	め	標	高	に	よ	っ	て	、	水	の	種	類	が	変	わ	る	と
考	え	て	い	た	。	し	か	し	違	っ	て	い	た	。	答	え	は	、	地
形	で	あ	っ	た	。	北	に	は	、	浅	間	山	が	あ	り	、	南	に	は
千	曲	川	が	あ	る	こ	と	だ	。	小	諸	の	水	は	、	1	番	お	い
し	い	。	小	諸	に	来	て	、	野	菜	、	そば	な	ど	を	食	べ	て	
感	じ	て	ほ	し	い	。	小	諸	と	い	う	市	を	も	っ	と	広	め	る
べ	き	だ	。																

2年3組 Hさん

講師コメント (ソトコト編集長 指出一正氏)

①この2種類というのを必要以上に説明していないのがよいと思います。言葉というのは、説明しすぎるととても人にスルーされるんですよ。なるべく読者に委ねることが大事で、あまり説明ばかりするとその人たちにとっての想像力とか共有するときのイメージーションが養えないんですよ。

僕は、作家さんで吉本ばななさんの担当編集者をしていますが、ばななさんほとにかく行間を読ませることだよ、といつも伝えてくれていて、Hさんの書き方もそういうものに通じているんですよ。

小諸そのものを地政学的なものとか地理学的なもので見つめながら、パーソナルなところに文章を最後持ってきているんですよ。小諸という市のことを、みんなもすごくいい街だということが分かっているけれども、その街をどう伝えたらよいか、伝えることをどう考えたらよいかみたいところが、最後の希望や願いになっているので、美しい終わり方だなと思います。

水	は	、	静	か	に	寄	り	添	う	よ	う	に	流	れ	、	命	を	や	さ
し	く	包	み	こ	む	存	在	。	透	明	で	何	に	も	染	ま	ら	ず	、
そ	れ	で	い	て	す	べ	て	を	受	け	入	れ	る	心	の	よ	う	。	雨
と	な	り	、	川	と	な	り	、	海	へ	と	旅	を	し	な	が	ら	小	諸
の	暮	ら	し	に	そ	っ	と	寄	り	添	っ	て	く	れ	て	い	る	。	そ
の	や	わ	ら	か	な	力	は	い	つ	も	静	か	に	そ	ば	に	あ	る	。
①	私	た	ち	の	失	敗	や	苦	悩	を	水	に	流	し	て	も	ら	い	たい
②	も	の	だ	。															

2年3組 Hさん

講師コメント (ソトコト編集長 指出一正氏)

水そのものを透明感とよどみなさみみたいなものが文章の紡ぎ方に表れています。かなりプロフェッショナルな書き方を修練されると良いかもしれません。

水はのあとに「、」が入っているのも美しいです。

①やわらかいという言葉に力をつけられたというのは、すごく良い才能です。力というのはマッチョだったりパワフルという言葉で使われがちですが、力というのが決して強いものではない。このやわらかさがあるからこそ力が強いということに繋がってくるんですよね。静かにという言葉も、柔らかさの後につなげるのには、パーフェクトだと思います。

②パーソナルな思いがこもっているのかな、孤高の文章にしない、最後、親しみやすさに戻したところもきれいだと思います。

文章が破綻していないことがプロフェッショナル。言葉の重複がなく、それでいてお互いの言葉がちゃんとバトンを受け取って最後までいっている。すごく、よい文章です。

キ ャ ッ チ フ レ ー ス

“ 味 覚 の 冒 険      コ モ ロ の 湧 き 水 ”

ス	ル	ス	ル	ゴ	ク	ゴ	ク	“	味	覚	の	冒	険	”	喉	を	つ	た	わ	
り	心	へ	届	く	、	本	物	の	美	味	し	さ	は	、	コ	モ	ロ	で	し	
か	楽	し	め	な	い	！			さ	あ	超	軟	水	か	ら	超	硬	水	へ	冒
険	し	よ	う	！																

2年3組 Mさん

講師コメント (ソトコト編集長 指出一正氏)

エッセイストになれる文章ですね。オノマトペとか擬音語、擬態語とかをうまく使えるというのは、言葉と自分の距離感が近い人の場合が多いんですよ。言葉に距離がある人は、難しい言葉で武装すること多かったです。言葉と自分の距離がフレンドリーな近さだなおも思いました。その中でも M さんの スルスルゴクゴクから始まる、カタカナで始めているというのがよいと思います。

伝えないといけない言葉というのは必ず文章の中にあるんですね。例えば今回のお題は、水、小諸や皆さん自身という3つのキーワードをどう絡めていくかというところに面白味があるんですけども、この中では、超軟水と超硬水というのをただの説明の専門用語ではなくて、冒険の対象にしたところが秀でていると思います。ディズニーランドやUSJと超硬水や超軟水がイコールなんですね。こうやって、言葉というのは遊ぶだけ遊んでみてください。人の名前だからだめ、形容詞だから名詞みたいに使ってはダメとか一切ないです。言葉の響きと自分がこれは楽しいつなげ方かなと思ったらそれが正解です。終わり方も人を誘う言葉として良いですね。

キ ャ ッ チ フ レ ー ス

小 諸 の 水 は あ な た の 隣 に 寄 り 添 う  
自 然 の 恵 み

小	諸	の	水	は	あ	な	た	の	隣	に	寄	り	添	っ	て	く	れ	る	自	
然	の	恵	み	で	す	。	山	か	ら	湧	き	出	て	く	る	澄	ん	だ	水	
は	あ	な	た	の	心	と	体	を	優	し	く	潤	し	毎	日	の	暮	ら	し	
に	溶	け	込	み	ま	す	。	透	明	な	水	の	一	滴	一	滴	が	人	々	
①	を	癒	し	笑	顔	を	つ	な	い	で	未	来	へ	の	希	望	を	育	み	ま
す	。	小	諸	が	与	え	て	く	れ	た	恵	み	で	生	活	が	豊	か	に	
な	る	は	ず	で	す	。	私	た	ち	に	寄	り	添	っ	て	く	れ	る	愛	
の	結	晶	を	ぜ	ひ	楽	し	ん	で	く	だ	さ	い	！					②	

2年3組 Mさん

講師コメント (ソトコト編集長 指出一正氏)

①溶け込むという言葉を、水とうまく書けているところも秀逸だと思いました。

②愛の結晶を選んだというのも相当文章とか小説とか映画とか、言葉を入れ替えることで起きる抑揚、リズムみたいなことを本能的に知っているのかなと思いました。

結晶と流体としての水みたいなものが比較になるんですね。全体を流れている色が透明感、透明な色が流れているのは人を不快にさせないんですね。

人を挑発するためにはブラックコーヒーみたいに濃い文章の書き方をするときもあるし、人に、幸せとか涼やかさを持っていきたいときは、透明性のある文章の作り方が大事になってくるので、それをMさんの文章は感じさせてくれました。

い	ま	ま	で	小	諸	の	水	に	つ	い	て	何	も	知	ら	な	か	っ	た
小	諸	の	水	は	浅	間	山	と	八	ヶ	岳	の	水	が	流	れ	て	く	る
か	ら	か	っ	た	い	水	と	め	っ	ち	ゃ	ゃ	わ	ら	か	い	水	が	あ
る	ら	し	い	。	「	水	に	違	い	な	ん	か	な	い	で	し	ょ	」	と
思	っ	た	け	ど	飲	み	く	ら	べ	た	ら	い	ち	ご	と	い	ち	ご	味
く	ら	い	ち	が	っ	た	で	も	ど	っ	ち	も	お	い	し	か	っ	た	な
～	。	小	諸	の	水	は	自	然	の	恵	み	だ	な	～	。				

2年3組 Wさん

講師コメント (ソトコト編集長 指出一正氏)

アメリカ文学でよく引用されるベースの使い方なんです。アメリカの文章で口語体をいっぱい使うんです。硬い水と柔らかい水をなるべくリセットとさせようとして、かったいとめっちゃとしていますよね。これアメリカ的です。小説でなくて描写じゃなくて、ポエムみたいですね。

②「」を入れるというのも、日本だと村上春樹さんみたいな感じで、口語体の中に人は読みやすくなるんですよ。

③驚いたフレーズがあります。すごい表現です。人を納得させられるすばらしく寓話的な表現です。いちごといちご味、同じものじゃんて思いがちですが、よく考えてみると違いますよね。いちご味のジュースといちごそのものは違うというのを、同じようなもので微妙にずらしている。全く違う「月とすっぽん」「水と油」ていうのは誰もが分かりやすいものすごい離れた対比を示していて、水と油という言葉そのものが今は違いというのはわかると考えたときに、限りなく違うものだけど全然違うということをいちごといちご味で並べることで書き綴ったことがすごく美しい。

誰かを不幸にしない文章が書ける人です。